

はぐくむ

福岡県手をつなぐ育成会報

発行所
 公益社団法人
 福岡県手をつなぐ育成会
 〒816-0804
 春日市原町3丁目1番7号
 福岡県総合福祉センター
 TEL (092) 584-4374
 発行人
 会長 横山利恵子
 ありがとうございます



この会報は、
 共同募金の配分を受けて
 作成したものです。

令和3年度

公益社団法人福岡県手をつなぐ育成会 事業報告概要

公益社団法人 福岡県手をつなぐ育成会

会長 横山 利恵子

令和4年5月11日(水)、クローバープラザにおいて令和4年度定時総会が開催されました。事務局より、令和3年度事業報告の後、令和3年度決算報告などが審議され可決承認されました。

昨年度も新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、経済活動が低迷し、日常生活に支障をきたしました。本会においてもその影響のため、研修会や大会、地域生活支援事業などが中止や延期となりましたが、その一方で会議や研修会及び大会がIT機器の活用によるオンライン等の開催となり、「新しい活動方法」が定着してきました。その結果、財政面で対外的な役員会や研修会等の旅費の支出が押さえられました。しかしながら、本会会員のすべてがその新しい活動方法の恩恵を享受できず、本会会員相互の連携が希薄化している現状も見受けられます。

それ故に、リモート会議や研修とともに、感染対策を充分に行った対面による研修等の開催の必要性が求められました。

令和4年度は、組織強化の観点からもハイブリットでの会議や研修会を開催し、安定した会員相互の絆を構築する必要があります。また、就学前や学齢期の保護者を対象にした「参加者主体型」の研修会、学習会

に重点を置き、会員拡大につなげていくことが重要な課題となります。

コロナ禍の光明 — ハイブリット会議 —

福岡県地域生活支援事業の一部中止をはじめ、各種大会や研修会の対面開催が実施できませんでした。地域支援事業では、4事業に亘り11団体が実施を取りやめ、1研修会が中止となりました。

このコロナ禍では、事業自粛が余儀なくされましたが、2年連続で、経常増減額は黒字化しています。その要因の一つが、オンラインやハイブリットによる会議や研修会が定着し、費用も抑えられ、いつでもどこでも参加できる体制が構築されたことでした。

*ハイブリット会議＝オンラインと対面による会議

令和3年度決算報告書

経常収益(千円)	令和3年度	令和2年度	差 額
会費	2,435	2,632	-197
補助金	2,436	2,440	-4
寄付金等	120	415	-295
事業収益	1,945	2,359	-414
雑収益	566	680	-114
経常収益合計	7,502	8,526	-1,024
経常費用			
公益事業	5,111	5,766	-655
収益事業	380	421	-41
法人会計	1,806	2,042	-236
経常費用計	7,297	8,229	-932
当期経常増減額	205	220	-15

地域育成会の活性化とその動向

この2年余、コロナ禍の厳しい現状の中でも地域の育成会は、地道な活動を続けていきました。

①啓発キャラバン隊を組織化

福岡県下で、知的、発達障がいへの理解を図るための啓発キャラバン隊が2か所で組織化されました。また、1か所ですその準備が進められています(2頁参照)

②市町村への働きかけ

会員が、地元の自治体に対し、新型コロナウイルス感染症に関する要望書をはじめ、障がい者福祉計画などに対する意見書を提出しました。この地域育成会の積極的な動きは育成会の本来の姿であり、活性化を図ることに繋がります。

③新たな育成会の相互扶助事業開始

育成会会員向けの保険が充実されました。従来から福岡県育成会会員向けの「福岡県障がい者総合保障制度」がありました。それに加えて左記のような新しい保険事業が生まれました。

【全国手をつなぐ育成会連合会】

- おたすけプランシリーズ
 - ・暮らしのおたすけプラン
 - ・がんのおたすけプラン
 - ・おたすけプラン・日頃の備え
- ・手をつなぐがん保険



※保険の問い合わせは福岡県育成会迄
 連絡先は4頁をご覧ください。

出前講座 啓発キャラバン隊結成!

○心をつなぐ疑似体験

福岡県手をつなぐ育成会では、平成28年度より、出前講座を実施してきました。その内容は「知的・発達障がい理解」を目的とした疑似体験活動です。

コロナの影響で令和2年度は中止、3年度は1回の実施でしたが、年間3〜5回実施しています。

本年度は6月末までに既に4回を実施しています。

これは筑後市手をつなぐ育成会と筑後市社会福祉協議会がコラボし「ちつきやら」というキャラバン隊を立ち上げ、疑似体験活動を進めているからです。

○筑後市キャラバン隊「ちつきやら」

「ちつきやら」とは、筑後啓発キャラバン隊からついた愛称です。筑後市手をつなぐ育成会の保田会長他4名の会員と筑後市社会福祉協議会職員のト部主任の6名で組織されています。

昨年度から準備や育成会内で練習を積み重ねてこられました。そして、本年4月4日(月)に筑後市職員新任研修会で実践デビュー、その後、筑後市民生委員会や地域自立支援協議会の研修会で疑似体験活動をされました。



ちつきやらのメンバーの方々

○我が子を語る

もう少しキャラバン隊「ちつきやら」の話をします。

ある機関から、疑似体験の申し込みを受け、打ち合わせに行ったときの話です。担当者の方から「知的障がいって何ですか?」という質問を受けました。



疑似体験の様子

この命題は全国手をつなぐ育成会連合会の機関紙「手をつなぐ」の5月号に特集されていますので、そちらを参照して頂いて、要は「二人ひとりに違いがあり、特性がある」と言えます。

「ちつきやら」の特徴は、疑似体験の要所で【我が子を語る】エピソードトークにあります。親が障がいのある子の成長過程で教師や福祉関係者に【我が子を語ること】があっても、一般の人に対して語ることは皆無と言えます。また、それは勇気のいることです。だからこそ、そのト

ークは真実味があり、参加者の心に響きます。同時に親自身も強くなっ

ていきます。

○地域とつながる

キャラバン隊「ちつきやら」が、地域福祉の要でもある社会福祉協議会とコラボして生まれたことにも意義があると思います。社協職員のト部主任さんに深く感謝しています。啓発キャラバン隊の活動を通じ、多



疑似体験の様子

くの団体とのつながりを構築していくことでしょう。

○キャラバン隊の現状

今、福岡県下では、啓発キャラバン隊の組織機運が高まっています。「ちつきやら」の活動に続き、筑豊地区に社会福祉法人翼会の職員有志によるキャラバン隊が作られています。

また、大野城市手をつなぐ育成会(赤井田八千代会長)では、キャラバン隊組織化の動きが始まっています。

○一粒の芽ばえから始まる

障がい理解は、知的障がい者が一人の人間として尊重されることではないでしょうか。

「ちつきやら」のト部主任は、佐賀県で起こった警察官の職務質問で亡くなった自閉症の方の話を聞いて「もし、この人は自閉症では?」と警察官が疑問を抱いていたら、彼は命を失うことはなかったのではと参加者に呼びかけ、障がい理解の必要性を説かれていました。彼はキリストのように一麦となって、多くの実りを私たちに与えてくれたのでしょうか。

令和4年6月、「手をつなぐ応援隊」により福岡県警察学校で出前講座を実施しました。秋には第2回目の実施を予定しています。

また、志免町社会福祉協議会からの要請で夏休みに中学生に向けて実施します。一粒の芽ばえを願い、啓発キャラバン隊は今年度も活動します。

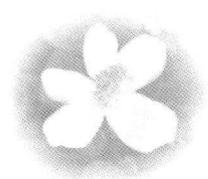
令和4年度【出前講座】障害基礎年金学習会の開催

福岡県手をつなぐ育成会では、平成28年度から出前講座「心をつなぐ疑似体験」を開設してきました。そして、新たに令和4年8月から出前講座「障害基礎年金学習会」を開設することにしました。

【障害者基礎年金学習会要綱】

成人年齢が18歳、20歳以上と二重構造になっています。選挙権は18歳以上ですが、障害基礎年金は20歳です。その申請は20歳までに行う必要があります。この度、全国手をつなぐ育成会連合会、権利擁護センターで障害基礎年金の申請手続きやそれに関するQ&AをDVD等でわかり易く説明することにしました。それを受けて、福岡県手をつなぐ育成会では、出前講座障害基礎年金学習会を開催することにしました。

1. 申込み方法 出前講座申込用紙に必要事項をご記入の上、mailやFAXにて福岡県手をつなぐ育成会事務局までご送信ください。
※申込用紙はHPから取得するか又は直接事務局までお電話ください。
2. 参加対象者 特別支援学校、特別支援学級保護者、教育関係者など
3. 参加費用・人数 無料 何名でも可
4. その他 会場・パソコン・プロジェクター・スクリーン等は準備してください。



第1回福岡県障がい者スポーツ大会開催

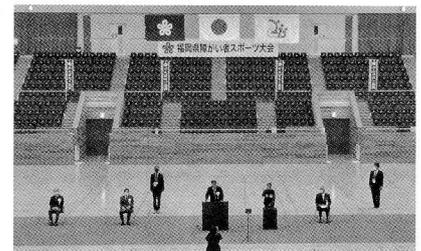
コロナ感染の影響で延期されていた第1回福岡県障がい者スポーツ大会が、4月30日(土)久留米市のアリーナで総合開会式が行われました。それ以前は知的障がい(精神障がいも含む)と身体障がいの二つの大会が開催されていましたが、本年度初めて統一開催されることになりました。

コロナ禍もあって、来賓あいさつも少なく開会式は簡素化されましたが、アスリートファーストが活かされた開会式でした。

個人的な感想は、市町村や支援学校、施設単位の参加申込となり、「育成会」としては団体名が消え寂しさを感じました。

学校の部活動が地域移行を進める中、「地域スポーツ団体」の存在感は増してきます。

将来、パラスポーツが地域の中で定着し、地域のスポーツクラブで、障がいの有無に関わらずアスリートたちが、共に練習に励む姿が見られるかもしれません。学校や施設という枠にとらわれない地域の「(障がい者)スポーツクラブ」のあり方に課題をもちながらも、第1回福岡県障がい者スポーツ大会が開幕し、5月14日に全競技を終えることができました。



第1回福岡県障がい者スポーツ大会 開会式

相談活動 心の糸電話

令和3年度の相談活動の実績は相談件数は、延べ94件でした。件数としては前年度を下回りましたが、相談内容としては

1. 新型コロナに関係するもの 53件
2. 8050問題に関するもの 37件
3. 虐待に関するもの 2件
4. 進路に関するもの 1件
5. 療育手帳の申請に関するもの 1件

相談内容の虐待、進路、手帳の申請については、関係機関と連携を図りました。

【一考】

特にむずかしかった相談は、親なき後の【安心して生活できる場】の相談でした。

【入所施設】を希望してるが、施設の空きがないという。地域移行の施策で「施設からGHへ、GHからひとり暮らしへ」は理解できるが(地域格差や職員のスキルなど問題があり)行動障害のある子の行き場がない。施設は軽度の子しか受け入れないとの嘆きの声が寄せられました。

(事務局)

